

高知県社会福祉事業関係者知事表彰・高知県社会福祉大会会長表彰について

11月19日(水)、高知県立ふくし交流プラザで、「第76回高知県社会福祉大会」が開催されました。大会のなかで、長年にわたり社会福祉事業に精励し、顕著な功績を挙げた民生委員・児童委員などをたたえるための「高知県社会福祉事業関係者知事表彰」で、町からは、谷口孔子さんが表彰されました。

また、高知県内の社会福祉の発展に功績のあった個人や団体に対し、社会福祉大会の会長が感謝と敬意を表して贈る「高知県社会福祉大会会長表彰」で、町からは、小橋たか子さん、濱口由美さん、境好美さん、武政富男さんが表彰されました。



第20回 黒潮町社会福祉大会

11月15日(土)、保健福祉センターで、「第20回黒潮町社会福祉大会」が開催されました。「つなぐつながるみんなのまち～お互いさまの和～」と題して、模範高齢者表彰や小・中学校の意見発表、大方高校の活動紹介などが行われました。



- ◆模範高齢者表彰 吉尾正市さん、柿内弘行さん、明神義士さん、伊尾木祥子さん
- ◆感謝状贈呈 入野小学校、南郷小学校
- ◆意見発表 入野小学校 土居寛奈さん、林虎太朗さん「あいさつ運動をすることで」
田ノ口小学校 有友日葵さん、松本貫汰さん「福祉活動で学んだこと」
大方中学校 松本翔太さん 「みんなの町」
- ◆活動紹介 大方高校 家庭科部チーム我彩 樋口琴子さん・藤原鈴夏さん
「青春のグリーンレモン～想いを繋ぐプロジェクト～」

また、当日は各地域福祉の活動写真や活動内容の紹介パネルが会場内に展示され、多くの人が来場しました。

まほろば Vol.27 くろしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです。

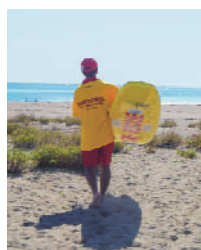


**くろしお浮ぶち
サーフライフセービングクラブ**
おおしま だし てる こ
大島貞さん・照子さん

ヨーロツパ発祥の人命救助を目的としたライフセービング。その中でも海における活動をサーフ・ライフセービングといいます。昨年10月に高知県内で初めて、日本ライフセービング協会所属のクラブ、「くろしお浮ぶちサーフライフセービングクラブ」を立ち上げた大島さん夫婦に話を聞きました。

私たちはサーフィンをやっている、子どもと一緒に海に行く機会が多く、そのうち子どもの友だちも一緒に行くようになり、大人数で海で遊ぶようになり、親が交代で子どもを見守ることが多くなりました。普段、主に遊びに行く浮輪の海は、海水浴場として開放しておらず監視する人もいません。そのため、子どもたちを守るように2人で勉強を始めました。昨年の5月にライフセーバーの資格を取得し、10月にクラブを立ち上げました。立ち上げに際して、日本財団や日本ライフセービング協会の副理事長より、救命ボートやユニフォームをご寄付いただきました。

経緯は？
クラブ立ち上げの



主に活動を始めたのは昨年の7月から。町の小学校、中学校などの10校で日本ライフセービング協会が実施する講習のサポートを行ったり、サーフィンをする際には、浜にテントを張り、夫婦交代で海の安全を見守っています。また、町外から遊びに来ていた方が沖に流されているのを発見し、私たち夫婦とゲストハウスのアリスタのオーナーの3人で救助活動も行いました。勉強をして訓練をしていたからこそ、救命することができたと思います。

これまでの活動は？



私たちが伝えたいのは、ライフセーバーという活動の存在と、私たちの活動が、「事故などが起こった時の救助」よりも、「水辺での事故を未然に防ぐための取組」であるということです。また、地域の方の協力も必要となるので、一人でも多くの方に私たちの活動を知ってもらい、正しい知識を広めたいです。

町内の方は海に慣れているため、海を「怖い」「苦手」と感じる人が少ない。つまり、危機感があまりないようにも感じました。

活動を通して思ったこと、これからの展望について